

令和5年度（2023年度）島根県立大学
地域政策学部 地域政策学科
地域経済経営コース

学校推薦型選抜（一般推薦）

総合問題

【試験時間 90分】

以下の1から8をよく読んで指示に従うようにしてください。指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 試験時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから8ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 試験時間中の退出はできません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

第1問 日本人の海外旅行と訪日外国人旅行者に関する以下の問いに答えなさい。

問1 日本人海外旅行者の訪問先順位を示した表1、地域別にみた訪日外国人旅行者数を示した表2、それぞれを参照し、各表に関する後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

著作権保護のため、問題文は公開できません。

(出所) 国土交通省観光庁編「令和3年版 観光白書」

著作権保護のため、問題文は公開できません。

(出所) 日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客数 (総数)」に基づき作成。

(設問のため上の 2 つの表及び注を一部変更・追加した)

- (1) 表 1 において 2015 年に対する 2016 年の訪問者数の増加率が最も高い国・地域を答えなさい。またその増加率を計算しなさい。なお、解答にあたっては、%単位で記述し、小数点第 2 位を四捨五入したうえで小数点第 1 位までの値で答えること。
- (2) 表 1 において 2015 年から 2019 年の期間にわたる米国と韓国の訪問者数はどのように推移しているか。両国を比較しながら 90 字以内 (句読点を含む。2 桁以上のアラビア数字を使用する場合は、1 マスに 2 文字を入れる) でその特徴を述べなさい。
- (3) 表 2 において (ア) ~ (ウ) のシェアを計算しなさい。なお、解答にあたっては、%単位で記述し、小数点第 2 位を四捨五入したうえで小数点第 1 位までの値で答えること。
- (4) 表 2 に関する記述として、つぎの①~③のそれぞれが正しい場合は「○」を、誤りを含む場合は「×」を解答欄に記入しなさい。
 - ① アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアのうち、2018 年から 2020 年にわたり訪日者数が毎年減少している地域がある。
 - ② アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアを合わせた訪日者数が 2018 年と比べて 2020 年に大きく減少しているその主な要因はアジアからの訪日数の減少である。
 - ③ アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアのシェアが高まるためにはそれぞれの地域の訪日者数が増えていなければならない。

問2 国土交通省観光庁編「令和3年版 観光白書」に掲載された国際会議等の開催に関する次のコラムを読み、後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

著作権保護のため、問題文は公開できません。

著作権保護のため、問題文は公開できません。

(設問のため文章を一部変更した)

(注) MICE 企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、これらビジネスイベントの総称。(出所：国土交通省観光庁ウェブサイト、作問者が注を追加した)

- (1) 下線部 (ア) ~ (オ) を漢字で丁寧に記しなさい。
- (2) 下線部 (A) に「MICE 開催効果」とあるが、その効果として考えられるものを2つ、30字と15字程度でそれぞれ本文から抜き出しなさい。
- (3) 下線部 (B) に「ハイブリッド型国際会議」とあるが、ハイブリッド型国際会議が残ると考えられる理由を、オンライン開催のメリットとデメリットに触れつつ、本文に基づき140字以上160字以内 (句読点などを含む) で述べなさい。

第2問 日本全国及び島根県の企業数に関する以下の問いに答えなさい。

問1 下の表は、中小企業庁編「2022年版 中小企業白書」に基づき全国及び島根県の企業数及び全企業数に占める構成比の推移を示したものである。この表に関する後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

著作権保護のため、問題文は公開できません。

(出所) 中小企業庁編「2022年版 中小企業白書」をもとに作成

(1) この表のうち、2012年に対する2016年の全国及び島根県内の全企業の増減率をそれぞれ計算しなさい。なお、解答にあたっては、%単位で記述し、小数点第2位を四捨五入した上で小数点第1位までの値で答えること。

- (2) この表のうち、2012年における島根県内の全企業に占める小規模企業の構成比(A)及び中規模企業の構成比(B)を計算しなさい。なお、解答にあたっては、%単位で記述し、小数点第2位を四捨五入した上で小数点第1位までの値で答えること。
- (3) この表に関する記述として、つぎの①～④のそれぞれが正しい場合は「○」を、誤りを含む場合は「×」を解答欄に記入しなさい。
- ① 大企業数は、全国及び島根県ともに2009年から2016年にかけて一貫して減少している。
 - ② 中規模企業数は、全国及び島根県ともに2009年から2016年にかけて一貫して減少している。
 - ③ 全企業の減少数は、全国及び島根県ともに2012年から2014年にかけてよりも、2014年から2016年にかけてのほうが多い。
 - ④ 全国の中規模企業の構成比は2009年から2016年にかけて一貫して上昇している。
- (4) この表において2009年から2016年の期間にわたり島根県の企業数は全国と比較してどのように推移しているか。規模別の内訳のうちその推移に影響を与えている主な要因に言及しながら90字以内で述べなさい(句読点を含む。2桁以上のアラビア数字を使用する場合は、1マスに2文字を入れる)。

問2 以下は、島根県商工労働部「島根県中小企業・小規模企業振興基本計画」(令和4年度版)における「Ⅲ 中小企業・小規模企業支援について」の「2 支援の方向性ごとの取組姿勢」のうち「(3) 地域の持続的な発展を支える創業・事業承継の推進」に関する内容である。これを読んで、後の(1)～(2)の問いに答えなさい。

著作権保護のため、問題文は公開できません。

著作権保護のため、問題文は公開できません。

- (1) 下線部 (ア) ~ (オ) を漢字で丁寧に記しなさい。
- (2) あなたが島根県の政策担当者であるとすれば、「円滑な事業承継の推進」、「起業・創業しやすい環境整備、育成の推進」のそれぞれに向けて市町村、支援機関などと連携して具体的にどのような政策を実施すべきだと考えるか。本文を参考にしつつ「円滑な事業承継の推進」、「起業・創業しやすい環境整備、育成の推進」のそれぞれについて、あなたが考える政策の内容を 75 字以上 100 字以内で述べなさい (句読点やカッコも字数に含める)。